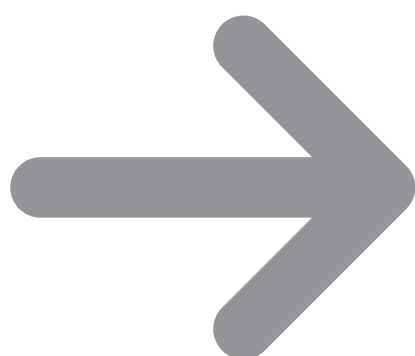


震災情報の整理について

大震災発生時の行動をわかりやすく5分野に分けて整理しましょう。



ガイド

本マニュアルの前提となる各種ルールや、具体的な活動方法についてまとめています。



いのち

人の命に関わる重要なカテゴリーです。安否確認のルールや救助・救護対応などをまとめたカテゴリーです。



情報

安否確認の情報や建物被害の情報には、'災害対策本部が居住者へ伝える情報'と'居住者が災害対策本部に報告する情報'があります。これらの情報の取得方法や伝達方法などをまとめたカテゴリーです。



くらし

マンション内で被災生活を送る際に必要な、マンション内設備の利用ルールなどをまとめたカテゴリーです。



建物

マンション内の設備や建物の被害状況の確認と共に、危険周知の実施などをまとめたカテゴリーです。



ガイド

⇒ 防災パスポート → ト

ガイド



本マニュアル利用ルールの考え方

本マニュアルは、災害発生時の混乱抑制および被害軽減を目的として、マンションにお住まいのみなさまで互いに協力して身の安全を守るための「活動体制」と「活動指針」について示したものです。

震災時はマンション外部から支援が困難であると想定されるため、安否確認や救助・救護活動など、マンション内の居住者同士で対応を行うことを前提としています。本マニュアルは震度6弱以上の大震災発生時を想定したものです。

日中に地震が起こった際、多くのマンション居住者に大量の帰宅困難者となり帰宅できなくなることが想定されます。そのために、本マニュアルで記載する災害対策組織については、帰宅困難となり不在となる場合を想定した上で災害対策組織体制を検討する必要があります。

いのち

情報

くらし

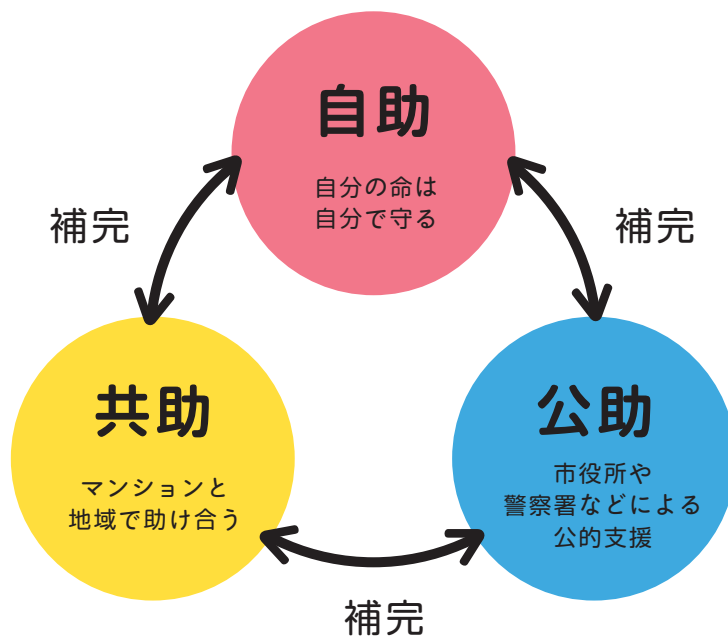
建物



はじめに

本マニュアルにおいては、「自助」を前提とした上で、マンション内で「共助」を機能させるための各種ルールについて記載しています。

震災の被害を最小限に抑えるための 3つのチカラ



マンションにおける自助・共助の役割分担

	自助 自分の命は自分で守る	共助 マンションと地域で助け合う
水・食料の備蓄	●	
家具転倒防止等の室内環境対策	●	
安否確認：家族	●	
安否確認：居住者		●
閉じ込め救助	● 家族を救助	● 居住者を救助
要援護者の対応	● 家族を救助	● 居住者を救助
共用部の環境改善 (漏水対応・ゴミ対策)		●
行政情報収集 (避難所・救援物資等)	● 一部	●



被害想定

地震の規模

震度6弱以上の大地震が発生

マンション外部からの支援が困難な状況です。

避難所は避難者であふれ、避難所への避難も困難な状況です。

平日の昼間などに発生した際は、帰宅できない居住者が大量に発生します。

被害想定

ライフラインが全て停止

ライフラインの復旧には時間がかかります。

復旧までの目標日数（参考）※内閣府公表 平成24年4月
地震直後の機能支障実態数の95%が回復するまでの日数



電気

6日



上下
水道

30日



ガス

55日



電話

14日

対応方針

大地震発生時の混乱抑制および被害軽減を目的とし「災害対策本部」を組織します。
救助・救護活動や安否確認等については、マンション内の居住者が「災害対策組織」
を中心として行います。



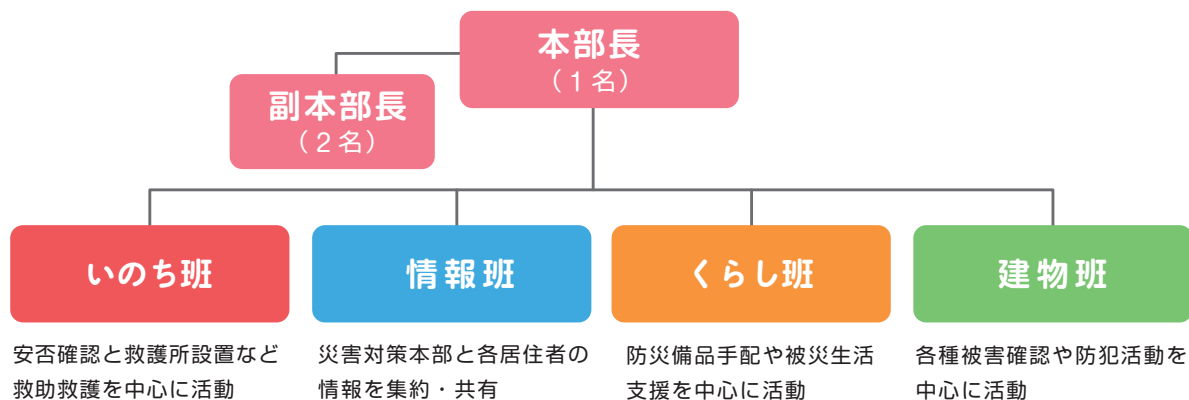
災害対策本部とは

災害対策本部の最大の目的は、マンション内での被害を抑えることです。

災害対策本部 マンションの活動全体を指揮、管理する役割

- マンション内での安否確認や救助・救護
- マンション内外の情報を収集
- 居住者へ情報提供

ブロック 個別の活動単位（マンション規模に応じて変わります）



災害対策本部メンバー選出の考え方

災害対策本部は理事会役員を中心に役割りを割当てます。

各マンションにある組織（理事会・自治会・防災委員会等）に応じて、現役役員および役員OBを割り当てるなど調整します。

役職	担当	役職	担当
本部長	理事長		
副本部長	副理事長		
いのち班長	理事会役員	いのち班員	自治会役員 or 防災委員会 or 居住者
情報班長		情報班員	
くらし班長		くらし班員	
建物班長		建物班員	



ブロック設置の考え方

高層マンションや多棟構成などのマンションでは、災害対策本部のみでの統制・管理が難しいため、災害対策本部の直下にブロックを組織します。

災害対策本部のみ設置する場合

情報一元化、統一的な対応などがしやすくなります。

ブロック式災害対策組織を設置する場合

マンション規模が大きく、災害対策本部だけでは活動が難しい場合は活動組織を分ける

①災害対策本部

マンション全体を統括、ブロックを支援する。

②ブロック

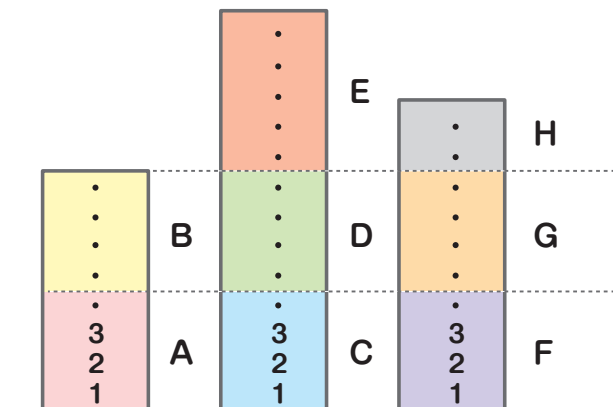
活動単位として、安否確認・救助活動などの協力活動を実施する。

マンションの戸数や構造などによるブロック構成の違い

ブロックの構成は、マンションの構成や階層、生活動線など考慮し構成します。
1ブロックを50戸前後とするのが理想です。

高層マンションの場合
階層ブロック体制

多棟構成マンションの場合
棟別ブロック体制





災害対策本部の立ち上げと任命

本部長・副本部長は、災害対策本部の立ち上げ判断を行い、災害対策本部の人員が不足している場合は、居住者の中から災害対策本部要員として任命します。また、各班の対応状況などを考慮し、人員の配置や各種対応内容の協議・判断を行います。

災害対策本部の判断事項

- 災害対策本部の設置判断
- 災害対策本部内の人員配置や居住者への災害対策本部への協力要請
- マンション内の各種対応への検討・判断

例：	いのち	安否確認……………	安否確認の進捗状況の確認
	いのち	救助活動……………	住戸内への立入りの判断
	建物	建物被害確認……………	被害状況の確認と対応
	くらし	排水制限……………	排水制限実施の判断
	くらし	ゴミ出しルール……………	ゴミ出し制限の判断

- 外部（行政・管理会社・設備保守会社など）からの情報収集・調整

例：	情報	行政……………	ライフラインの復旧状況確認
	情報	消防……………	傷病人の搬送先確認
	情報	避難所……………	救援物資の配給状況の確認
	情報	管理会社……………	管理会社との対応
	情報	設備保守会社……………	設備の確認・修理対応

災害対策本部では上記内容を把握し、協議・検討の上、本部長が協力要請や各種対応を指示します。

チェック項目

大地震発生からの災害対策本部設置までの流れ

チェック

集合した本部要員が災害対策本部の設置を検討

チェック

災害対策本部要員の不足人数を確認

チェック

不足人員を補完するため、在宅者へ協力要請し、災害対策本部を設置

災害対策本部設置後の確認項目

チェック

各班に初動対応の指示

チェック

定期的に、災害対策本部で各種対応について協議・検討、決定した内容を居住者へ周知。